



島根県立三瓶自然館 サヒメル理科ネット通信 vol.020

『世界ジオパーク 「隠岐」の生き物たち』

<http://rikanet.nature-sanbe.jp/>

 2013 . 11.16

I N D E X

- ・サヒメルイベント情報
- ・特集『世界ジオパーク 「隠岐」の生き物たち』
- ・お知らせ

※携帯電話でのメール受信の場合、本文のレイアウトがくずれている可能性があります。予めご了承ください。



 サヒメルイベント情報

・ 11月22日(金) 9:30~12:00

科学コミュニケーション講座③

場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム・収蔵庫ほか

最初に普段は非公開の収蔵庫を当館学芸員が案内します。

サヒメルには、「動・植物」・「昆虫」・「地学（岩石）」の3つの収蔵庫がありますが、参加者の皆様が気に入られた収蔵庫をじっくり御覧になれる時間を1時間程度設けております。

その後、見学されての感想や、今までのご経験を踏まえて、参加者の皆様・当館職員で、教育現場で有効なサヒメルの利用方法について検討していきます。

↓このイベントについての詳細はこちら↓

<http://rikanet.nature-sanbe.jp/event/2013/11/07/176/>

・11月23日(土) 13:30~14:15

全国一斉熟睡プラ寝たリウム

場所：島根県立三瓶自然館 ビジュアルドーム

音楽とプラネタリウムの星空でリラックス。眠りへ誘うイベントです。

定員：170名(予約不要)

参加費：入館料(大人400円・小中高生200円)

※平成25年12月1日、8日、15日(各日曜日)

13:30~13:50にも熟睡プラネタリウムを行います。

11月24日(日) 10:00~12:00

美味しい骨学

場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム

手羽付き肉を食べて骨を取り出して骨格標本を作り、人と鳥の骨の違いを観察します。

定員：30名(要予約)

参加費：500円

イベントに関する申込み・お問い合わせ：0854-86-0500(三瓶自然館)

http://nature-sanbe.jp/sahimel/event/event_01.htm#link



特集 『世界ジオパーク「隠岐」の生き物たち』

2013年9月に隠岐諸島が世界ジオパークネットワークに登録されました。

世界ジオパークになったということは、隠岐諸島が地形・地質学的にとっても貴重な場所であると評価されたこととなります。とても喜ばしいことですね。

しかし、世界ジオパークに認定されると、隠岐諸島の地形・地質が生み出す自然の素晴らしさを守るだけでなく、しっかりと学ぶこと、また伝えていく義務が発生します。

そこで今回は、「知り・守り・教え・伝えていくべき隠岐」の一つ、隠岐固有の生き物を紹介していきます。

・なぜ、「隠岐固有」となったのか

隠岐諸島には固有の生物が約 30 種類確認されています（亜種を含みます）。なぜ隠岐諸島には固有の生き物たちが生まれたのでしょうか？それには隠岐諸島の成り立ちが深く関係しています。

隠岐諸島は、600 万年前に発生した火山噴火が元になり、誕生したと考えられています。

その後、地球は氷河期と間氷期を繰り返しますが、隠岐諸島は、氷河期など気温が低い時期には海水面が下降して隠岐と日本列島とがつながりました。また間氷期には海水面が上がり、隠岐は島となりました。海水面の上下によって、隠岐が本州と陸続きの時には、本州から隠岐へ動植物が渡りましたが、約 1 万年前から隠岐は島になりました。取り残された動植物たちの中には、隠岐で生き残るため、この 1 万年の間に独自に進化したものもいます。

これが、隠岐諸島に固有の生き物が見られる理由です。

・隠岐固有の生きものたち

1. オキサンショウウオ

隠岐固有の小型サンショウウオ類です。全長は成体でオスが 12 cm 程、雌で 13 cm ほどになります。

小型サンショウウオ類には、大きく分けて 2 つのタイプがあります。一つ目は、沢や溪谷に存在している「流水型」。もう一つは池や湖などに存在している「止水型」です。

小型サンショウウオ類の元々の祖先は「流水型」で、生息する環境が変わった中で「止水型」に進化したとされています。



オキサンショウウオ(幼体)

水かきがなく、ヒレのようにになっている尻尾が特徴

しかし、オキサンショウウオはその両方のタイプの特徴を持っています。また驚くべきは、オキサンショウウオは一度、止水型に進化したにもかかわらず、流水型に逆戻りの進化をしていることが遺伝子レベルの調査で分かってきています。このような進化の逆戻りをしている生物は稀です。

この進化の理由として、隠岐が陸続きであった時代に止水型の祖先が移動していき、その後、起伏の激しい離島となったことで溪流などへおしやられ、もう一度流水型に進化しているのではと考えられています。

しかし、完全に流水型に進化しきっていないところが、「1万年」という時間が、進化の過程では短い事を示しています。

とても興味深いオキサンショウウオですが、開発による生息地破壊や水質汚染により個体数を減らしています。

2. オキマイマイカブリ

隠岐固有のマイマイカブリです。マイマイカブリが、日本固有種であるため、オキマイマイカブリは隠岐の固有亜種とされています。

本土のマイマイカブリに比べて、尾部分が丸いことが特徴です。



左がオキマイマイカブリ、右が本土側のマイマイカブリ
尾が丸くなっているのが分かる。

3. オキタンポポ

隠岐諸島だけに分布するタンポポです。頭花は黄色で、頭花を支える総苞外片は反り返らず内片に沿っています。ここまでは、他の在来タンポポと一緒にいますが、総苞外片が、比較的長いことが特徴です。



オキタンポポ

頭花の下の総苞外片が比較的長い。

本州では、外来のタンポポが増えていますが、隠岐では外来タンポポの侵入が比較的少ないため、固有種のオキタンポポが大勢を占めていることも隠岐の自然の特徴だといえます。

しかし、他の在来タンポポと同じく外来種におされ徐々に分布を減らしています。

4. オキノアブラギク

こちらにも隠岐固有の物で、比較的小さな花を多くつけることが特徴です。

日当たりの良い、野道で見ることが出来ます。晩秋が見頃なので、今ちょうど良い季節です。



オキノアブラギク

小さいながらたくさんの花をつけている。

5. オキノアザミ

近年、本土のアザミと異なることが判明しました。本土の物と比べると、葉が厚くとげが鋭いことが特徴です。

「アザミ」の名の由来は、古語の「あざむ=驚く・あきれる」で、綺麗な花を摘もうとすると葉にあるトゲが刺さり、驚くことからこの名が付いたと言われていますが、これほどになると摘もうとする前から危ないことが分かっています。



オキノアザミ

どこを触っても痛そうな葉と、綺麗な花のギャップが強い。

・守っていく

隠岐に固有の生物を紹介しました。しかし、今回紹介したのは、ほんの一部で先述したようにまだまだ隠岐固有の生物たちが存在しています。

それらも含め、隠岐の生物たちは隠岐の特異な環境の変化に合わせて独自の生態系を作り上げました。そして隠岐の唯一無二の魅力となっています。

しかし、いくつかの生物は、近年その数を減らしている物も多くあります。

「隠岐に棲む生物たちを知り、それらがどういう状況にいるのか、その為に私たちが出来ることを考える。」そして伝えていく。それが、世界ジオパークとなった今、私たちの義務となっています。

(サヒメル理科ネット事務局 工藤 修也)



お知らせ

・メーリングリスト (ML) について

下記のメールアドレスにメールを送信していただくと、会員の皆様、サヒメルの研究員にメールが届くようになっています。

子ども達に好評だった教材の紹介など、情報共有にぜひご活用ください！

rikanet@nature-sanbe.jp

・会員専用ページ

会員専用理科相談室（理科授業に関する疑問や教材の質問ができます）

会員専用教材貸し出し受付（教材の貸し出し申込ができます）

<http://rikanet.nature-sanbe.jp/members/>

・島根県立三瓶自然館サヒメルホームページ

<http://nature-sanbe.jp/sahimel/index.htm>



※メルマガの配信停止を希望される方は下記連絡先までお問い合わせください。

三瓶自然館 サヒメル理科ネット事務局 工藤

TEL : 0854-86-0500 FAX : 0854-86-0501

E-mail : rikaoffice@nature-sanbe.jp

この事業は JST ネットワーク形成先進的科学館連携型の支援を受けています